洋上アルプス

No.327　2022年6月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL 0997-42-0331　FAX 0997-42-0333

GW期間の縄文杉周辺パトロールを実施（5月3日）

毎年「屋久島山岳部保全利用協議会」で実施しているGW期間縄文杉周辺のマナー指導が今年も中止されたことから、今回は当保全センターにおいて5月3日に縄文杉周辺パトロールを実施しました。

当日は天気も良く、若い世代の方々をはじめ大勢の登山者が入山していましたが、できるだけ一人一人に声をかけ、安全で快適な登山ができるよう注意喚起を行いました。

今後も新型コロナウイルス感染状況によっては登山者の増加も考えられるので、定期的にパトロールを実施したいと考えています。

これから屋久島は梅雨の季節を迎えます。登山者の皆様におかれましては、十分な準備と体調管理を行い無理のない安全な登山を心がけるようよろしくお願いします。

縄文杉展望デッキの様子

令和4年度有害鳥獣捕獲従事者研修を実施（4月21日）

実技研修の様子

4月21日に屋久島森林管理署にて令和4年度有害鳥獣捕獲従事者研修が行われました。

この研修は屋久島で深刻な問題になっているヤクシカの食害による生物多様性の侵害や果樹・希少種への被害を食い止めるべく、屋久島森林管理署と当保全センターの免許更新が必要な職員等を対象に行われる研修です。

当日は、午前中に森林管理署内にて法令等の座学が行われ、午後からくくり罠の実技が行われました。

実技研修は現場で行う予定でしたが、雨天のため森林管理署内の駐車場に場所を移し、罠や長距離無線式捕獲パトロールシステムの使用方法の説明を受けた後、参加者全員が実際に罠を設置して安全な取扱いや設置のコツ等を学ぶことができました。

研修では、年々ヤクシカの被害は減少傾向にあるとのことでしたが被害が無くなったわけではありません。今回学んだことを活かして屋久島の有害鳥獣捕獲の一端を担い、ヤクシカの被害をさらに減少させることを目標とし研修を修了しました。

令和4年度 屋久島世界自然遺産地域等のモニタリング調査概要

当保全センター及び九州森林管理局で実施する令和４年度のモニタリング調査の概要についてお知らせします。

◎ 目的

世界自然遺産に登録された屋久島の森林生態系を適切に把握し維持していくため、科学的なデータに基づいた順応的管理を行っていく必要があります。

平成11年度から行っている垂直方向の植生モニタリング調査を引き続き実施するほか、各種モニタリング調査を行い、学識経験者等の意見を聴きながら遺産地域の保護・保全に資するものです。

◎ 業務概要

1．屋久島中央部地域の垂直方向の植生モニタリング調査

中央部地域の垂直方向の植生モニタリングを行い調査結果をとりまとめ、今回と過去4回（平成14，19，24，29年度）との比較・分析を行い、評価します。

2．高層湿原の植生状況モニタリング調査及び保全対策の検討

・小花之江河に設定した調査プロットにおいて、植生保護柵内外のモニタリングを実施し動向予測を行い評価します。

・令和元年度に設置した水の収支、地下水位、水温モニタリング調査、湿原地形調査及び試行的保全対策箇所の土砂、枝条等の堆積状況をモニタリングし評価します。

・高層湿原保全対策検討会を開催します。

3．著名木(八本杉）の樹勢診断把握

今後の保護対策や改善策等を検討することを目的とて、樹木医による地上部の衰退度判定、倒木等の危険度判定等を基に総合診断を実施します。

4．森林生態系における気候変動の影響のモニタリング調査

各機関のモニタリングデータの収集、気象庁アメダスによる気候変動等のデータの収集・分析等を行い、動態予測及び脆弱性の評価をします。

植生モニタリング調査地点(平成29年度)

冬の花之江河（令和4年1月撮影）

八本杉（倒木に再生するスギ）

屋久島里めぐり（第6回）
――― 安房集落・楠川集落 ―――

公益財団法人屋久島環境文化財団 屋久島環境文化村センター　岩川 陽祐

●安房集落について

屋久島の東側に位置する安房集落は、屋久島島内で3番目に人口の多い集落で、屋久島の玄関口のひとつであると同時に、縄文杉や宮之浦岳への登山の玄関口にもなっています。

また、林野庁、鹿児島県、鹿児島県警察署の出先機関があるなど行政の中心的役割を担っています。

集落の文化としては、かつて安房集落の発展のために尽力し、現在も屋久聖人と称えられている泊如竹の命日（旧暦の5月25日）に、泊如竹が生前、集落民へ教えたと伝わる踊りを「如竹踊り」と称して、集落民の有志の方々が奉納しています。また、如竹踊りは、鹿児島県内の各地方の地域芸能と共通する芸態があることや、古い舞踊形態と近世初期の歌を組み合わせてできた貴重な民俗芸能であるとの評価を受け、平成18年4月21日に鹿児島県により県指定無形民俗文化財にも指定されました。機会があれば、ぜひ一度ご覧になることをおすすめします。

如竹踊りの様子（出典：環境省）

●楠川集落について

楠川集落は、人口が400人ほどの集落であり、かつてこの集落に所在した小学校の児童が制作したドラえもんと思われるキャラクターの像が撮影スポットとして有名です。

集落内には、隠れた名湯と呼ばれる楠川温泉があります。

楠川温泉の裏には、小川が流れており、入浴しに来た方々を川のせせらぎと温泉が癒してくれます。源泉はアルカリ性単純泉の冷泉であり25.8℃と低温であるため、加温しており神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性に効き目があるといわれています。

また、集落には、菅原道真公を祀った楠川天満宮や屋久島大社、子宝や安産の御利益があるとされる熊野神社等のパワースポットも多く、こうした神社仏閣を大事にすることで、先人との絆を深く持ち、その思想や精神性を後世に伝えていくことを大切にするという集落性を持っています。

楠川天満宮

屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和2年度）

[標高100mプロット（ビワンクボ川左岸）] 確認種数：108種（平成27年度調査：98種）

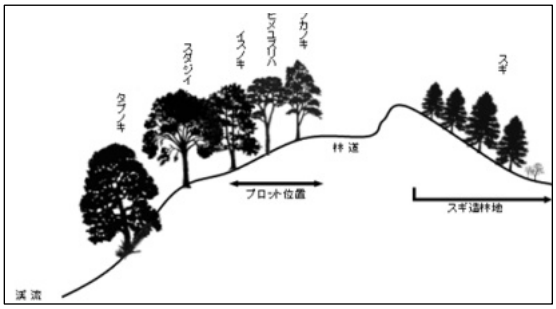
◆調査結果の概要　湯之川林道（通称）山腹の凸型斜面にある。リュウキュウモチ、シシアクチ等が、唯一この調査地でのみ確認される等、最多の108種を記録した。高木層にはイスノキ、フカノキ、ヤマビワが優占し、亜高木層・低木層はイスノキ、タイミンタチバナ、ヤブツバキ等が優占している。草本層にもイスノキが多く、ミヤマノコギリシダ、ホソバカナワラビと共に優占種を形成し、安定している。平成24年にシカの誘引捕獲が行われた場所でもあり、13頭の捕獲記録がある。ボチョウジ、ヤマモガシ等、9種の植物にシカの食痕を確認した。

◆優占種の変化

階層区分	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
高木層（8.0m以上）	イスノキ	イスノキ	イスノキ	イスノキ
亜高木層（4.0m～8.0m）	タイミンタチバナ	イスノキ	イスノキ	イスノキ
低木層（1.2m～4.0m）	タイミンタチバナ	イスノキ	イスノキ	イスノキ
草本層（1.2m未満）	ヤクカナワラビ	ヤクカナワラビ	ホソバカナワラビ	ホソバカナワラビ

イスノキに着生したシダ類
（ヒトツバ、タマシダ、ナンカクラン）

草本層の状況
（ホソバカナワラビ、タイミンタチバナ、落枝等が覆う）



標高100mプロットの群落横断図
※群落横断図の樹形図については「財団法人サンワみどり基金（1981）樹の本」から引用・改変

木に逢う日々（第5回）「改良カマドというプロジェクト」

当保全センター　ＧＳＳ　野々山 富雄

私が直接担当していたのは、適性技術の「改良カマド」普及という仕事でした。

「適性技術」というのは現地の人達が理解し、使いこなし、修理も容易な技術。炭焼きや井戸掘りなどが挙げられます。

「改良カマド」というのも、ピンとこない方も多いかと思います。実際、私も現地に赴いてから、団体代表に「君は改良カマドの担当ね」と言われ、「改良カマドって何ですか?」と聞いたくらいでした。

アフリカ砂漠化の原因は様々です。ひとつは過剰耕作、焼畑のし過ぎなどで、土地が疲労すること。また過剰放牧、増えすぎた家畜が草木を食い荒らすこと。

そして過剰伐採です。

アフリカの田舎では、未だに電気、ガスの供給が少なく、薪を使ったカマドで煮炊きをすることが多いのです。その際の使用量は膨大で、一般家庭でも1か月に1トンくらいの薪を消費します。それでは、樹木はドンドン切られてしまいます。

現地のカマドは石を3つ置いただけの簡単なもので、炎が隙間から逃げ、熱効率が悪いのです。

そこで、カマドを改良し、薪の使用を抑えようという試みが「改良カマド」というプロジェクトなのです。

試行錯誤の末、私が廃ドラム缶を活用して考案した金属製のカマドは薪の量を3割から5割、節約できるものでした。

金属製改良カマドの状況調査の様子